

第62期 報告書

2023年4月1日 ~ 2024年3月31日

HEPHAIST

それは価値を創造する個性ある集団です。



第63期経営方針

『不易流行』

成長とは、変化すること、変化を起こすこと
これらが、これまでを決める

代表取締役社長 尾崎浩太

皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜わり、厚く御礼申し上げます。

当社第62期報告書をお届けするにあたり、平素のご支援を深く感謝し、ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響の縮小に伴い経済活動が活性化し、雇用が改善するとともに、個人消費やインバウンド需要の増加もあり、景気は順調に推移しました。しかし、不安定な国際状況や円安などに起因する物価やエネルギー価格の高止まりに加え、中国経済の停滞や金融資本市場の変動など、わが国経済を取り巻く環境は、引き続き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは「スマート生産」[稼働率の平準化]「直動機器の製品力強化」[精密部品加工の売上確保]及び「ユニット製品の販路拡大」を今後の重点施策とした「中期経営計画Hephaist Vision65」を掲げ、中長期視点での成長と利益確保を目指して継続的に取り組んで参りました。

また、埼玉工場内に新設した直動機器増産のための新工場A棟の稼働を5月に開始するなど、中期計画に必要な設備投資を実行し、各設備の生産能力を生かした生産計画を立て、計画どおりに出来高を達成していく「スマート生産プロジェクト」を実践し、安定生産とそれによる将来的な原価低減に取り組んで参りました。さらに、市場シェアの低い形番の生産増強による直動機器のシェア拡大、生産技術の展開による生産数の増加、レース用部品の継続供給、及び電力費削減をはじめとしたコスト削減等に取り組みながら、経営方針「不易流行」を実践して参りました。

当連結会計年度の経営成績は、売上高は中国経済の停滞を背景に産業用機械や半導体製造装置向けに需要の低迷が継続し、2,310,401千円（前年同期比4.3%減）となりました。

利益面につきましては、生産設備投資とスマート生産を実践し、投資した生産設備の能力を生かした生産計画を実践することで直動機器の生産を増強して参りましたが、設備増強による減価償却費の増加、原材料価格や物流費等の上昇による製造原価の増加により、営業損失158,653千円（前年同期は、営業損失5,613千円）、経常損失156,970千円（前年同期は、経常利益3,658千円）、親会社株主に帰属する当期純損失221,824千円（前年同期は、親会社株主に帰属する当期純損失2,482千円）となりました。

直動機器につきましては、生産力の強化により、注文に対するタイムリーな納品対応を行ったことで、当連結会計年度の売上高は1,591,788千円と前年同期と比べ65,809千円の増加（前年同期比4.3%増）となりました。

精密部品加工につきましては、レース用部品の供給が本格復帰前の準備段階にあるため前年同期より減少しており、売上高は529,714千円と前年同期と比べ144,393千円の減少（前年同期比21.4%減）となりました。

ユニット製品につきましては、中国市場の受注の停滞や、電子デバイス、液晶パネル等の生産設備投資の需要回復が遅れており、売上高は188,898千円と前年同期と比べ25,076千円の減少（前年同期比11.7%減）となりました。

今後の見通しにつきましては、半導体需要の高まりや人手不足に伴う自動化に向けた設備投資の増加などにより、経済活動の正常化に向けた動きは継続していくものと想定されます。一方で、不安定な国際状況や円安による原材料価格及び物流費の高騰など、不透明な状況が継続することが予想されます。

このような状況の中、自動化関連の需要に向けて、強化した生産設備の生産能力を生かした直動機器のスマート生産を実践し、生産の増強及び販売の拡大を図って参ります。次期の連結業績見通しにつきましては、売上高2,452,679千円（前期比6.2%増）、営業利益23,807千円（前年同期は、営業損失158,653千円）、経常利益16,554千円（前年同期は、経常損失156,970千円）、親会社株主に帰属する当期純利益12,987千円（前年同期は、親会社株主に帰属する当期純損失221,824千円）を見込んでおります。

当社グループの業績は主要市場である産業用機械業界、電子部品業界及び自動車関連業界等の国内・海外における設備投資の動向に大きく影響を受けております。

また、物流費、原材料価格、エネルギー価格の高騰等、厳しい事業環境が続くことが想定されます。

当社グループは、このような事業環境の中で、財務面を中心とした管理部門との連携強化による固定費・変動費の削減等を強力に推し進め、収益の向上及び経営基盤の強化に努めて参ります。

主な重点方針は以下のとおりであります。

- ①固定費・変動費の削減による収益の向上
- ②コスト削減による利益率の改善
- ③直動機器の特定製品への設備投資による生産能力増強
- ④提案型技術営業による新規顧客開拓

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、配当を行うことを基本方針としております。

また、内部留保資金につきましては、財務体質の強化及び将来にわたる安定した株主利益の確保のため、事業の拡大・合理化投資及び厳しい経営環境に勝ち残るための新技術・新工法開発のために有効活用していきたいと考えております。

この方針のもと、当社は、2024年3月期期末配当予想を1円とさせていただいておりましたが、通期業績が赤字決算となったことにより無配とさせていただく所存でした。しかしながら、2024年6月に上場20周年を迎えるにあたり、株主の皆様のご支援に感謝の意を表し、1株当たり1円の記念配当を実施いたします。

次期の配当につきましては、1株当たり年間1円を実施する予定です。

株主・投資家の皆様には、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

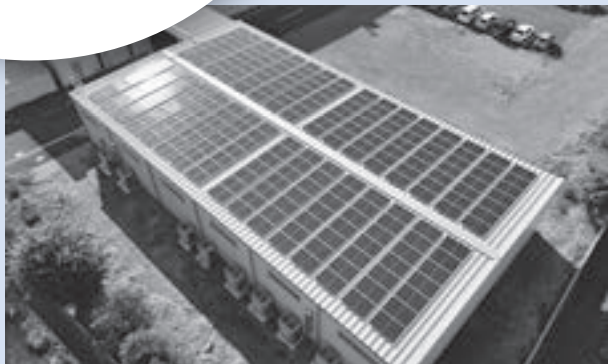
■ サステナビリティへの取り組み

当社のサステナビリティに関する最近の新たな取り組みは、次の通りであります。

- ・埼玉工場 A棟等への太陽光発電設備の導入
- ・フードドライブ事業参加による食品ロス削減及び子供食堂等への食品提供
 - ・チャイルド・スポンサーシップを通じた国際協力支援
 - ・廃棄物の化石燃料に代替する固形燃料（RPF）へのリサイクル
 - ・使用する紙のエコ化（卵の殻をリサイクルしたエコペーパー「CaMISHELL®」の使用）

当社は、引き続きカーボンニュートラルに向けた取り組みを継続し、CO₂排出量削減、社会のサステナビリティへの貢献に取り組んで参ります。

詳細につきましては当社ホームページをご覧ください。



連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表 (単位：千円)

科目	62期 2024年3月31日	61期(ご参考) 2023年3月31日
資産の部		
流動資産	2,729,047	2,634,759
固定資産	2,654,398	2,511,842
有形固定資産	2,339,469	2,164,868
無形固定資産	10,801	8,363
投資その他の資産	304,128	338,610
資産合計	5,383,445	5,146,601
負債の部		
流動負債	1,070,079	954,605
固定負債	1,294,962	962,084
負債合計	2,365,042	1,916,689
純資産の部		
株主資本	2,987,291	3,205,414
その他の包括利益累計額	31,112	24,497
純資産合計	3,018,403	3,229,912
負債純資産合計	5,383,445	5,146,601

連結損益計算書 (単位：千円)

科目	62期 2023年4月1日から 2024年3月31日まで	61期(ご参考) 2022年4月1日から 2023年3月31日まで
売上高	2,310,401	2,414,060
売上原価	1,994,464	1,936,157
売上総利益	315,937	477,903
販売費及び一般管理費	474,590	483,516
営業損失(△)	△158,653	△5,613
営業外収益	11,321	13,518
営業外費用	9,638	4,246
経常利益又は経常損失(△)	△156,970	3,658
特別利益	1,050	619
特別損失	190	161
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失(△)	△156,110	4,117
法人税、住民税及び事業税	5,158	4,878
法人税等調整額	60,555	1,722
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△221,824	△2,482

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：千円)

科目	62期 2023年4月1日から 2024年3月31日まで	61期(ご参考) 2022年4月1日から 2023年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー①	166,302	△39,996
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△322,712	△430,903
財務活動によるキャッシュ・フロー③	171,656	354,686
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,201	7,221
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	20,449	△108,992
現金及び現金同等物の期首残高	864,462	973,455
現金及び現金同等物の期末残高	884,911	864,462

連結株主資本等変動計算書 (単位：千円)

62期 2023年4月1日から 2024年3月31日まで	株主資本				株主資本 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	
当期首残高	732,552	691,468	1,796,810	△15,416	3,205,414
当期変動額					
譲渡制限付株式報酬		9,964			9,964
剰余金の配当			△6,262		△6,262
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)			△221,824		△221,824
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	9,964	△228,087	—	△218,123
当期末残高	732,552	701,432	1,568,722	△15,416	2,987,291
	その他の包括利益累計額				
	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額合計		純資産合計
当期首残高	90	24,407	24,497		3,229,912
当期変動額					
譲渡制限付株式報酬					9,964
剰余金の配当					△6,262
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)					△221,824
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	108	6,505	6,614		6,614
当期変動額合計	108	6,505	6,614		△211,508
当期末残高	199	30,912	31,112		3,018,403

連結貸借対照表のポイント

資産の部
棚卸資産が147,644千円、建物及び構築物が147,233千円、リース資産が181,791千円、それぞれ増加いたしました。

負債の部
借入金が226,033千円、リース債務が190,270千円、それぞれ増加いたしました。

純資産の部
利益剰余金が228,087千円減少いたしました。

連結損益計算書のポイント

売上高の減少は、精密部品加工がリース用部品の供給が本格復帰前の準備段階にあるため、減少したことが要因です。さらに、設備増強による減価償却費の増加、原材料価格・物流費の上昇による製造原価の増加により、経常損失となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

- ① 減価償却費の増加等により、資金が増加しました。
- ② 固定資産の取得により、資金が減少しました。
- ③ 借入金の収入により、資金が増加しました。

連結株主資本等変動計算書のポイント

純資産は、利益剰余金が減少いたしました。

株式の状況

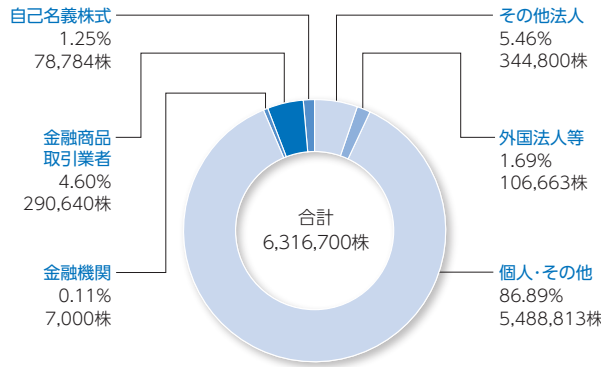
株式の状況 (2024年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数 18,720,000株
発行済株式の総数 (自己株式78,784株を除く) 6,237,916株
大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
尾崎 浩太	1,362	21.84
尾崎 文彦	1,201	19.26
小川 由晃	184	2.95
共有株式会社	130	2.08
auカブコム証券株式会社	101	1.62
有上 宏	83	1.33
高水 永夫	81	1.30
株式会社SBI証券	76	1.23
岸本 精一	75	1.22
三浦 美保子	70	1.13

(注) 1. 持株比率は自己株式 (78,784株) を控除して計算しております。
2. 当社は、自己株式を78,784株保有しておりますが、上記大株主から除いております。

所有者別株式数 (2024年3月31日現在)



第62期定時株主総会に関するご報告

2024年6月26日開催の第62期定時株主総会における報告内容及び決議内容は、下記のとおりです。

記

報告事項

第62期 (2023年4月1日から2024年3月31日まで) 事業報告、連結計算書類及び計算書類の内容並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

本件は、上記の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案 剰余金の処分の件

本件は、原案どおり承認可決されました。
期末配当金は、1株につき1円となります。

第2号議案 定款一部変更の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

第3号議案 取締役5名選任の件

本件は、原案どおり取締役として尾崎浩太氏、尾崎文彦氏、福留弘人氏、佐々木宏行氏、天野雅人氏が選任され、それぞれ就任いたしました。

第4号議案 監査役1名選任の件

本件は、原案どおり監査役として上條弘氏が選任され、就任いたしました。

第5号議案 補欠監査役1名選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、補欠監査役として渡邊英喜氏が選任されました。

第6号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本件は、原案どおり退任取締役菜花有三氏に対し、当社における所定の基準に従い相当額の範囲内で退職慰労金を贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は、取締役会に一任することに承認可決されました。

第62期期末配当金の支払いについて

本総会の決議により、第62期期末配当金は1株につき1円と決定いたしました。

1. 口座振込をご指定いただいている株主様は、同封の「第62期期末配当金計算書」及び「配当金振込先ご確認のご案内」によりご確認ください。
株式数比例配分方式を選択されている株主様の配当金のお振込先につきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

2. 口座振込をご指定いただけない株主様は、同封の「第62期期末配当金領収証」により、払渡期間中 (2024年6月27日~2024年7月31日) に最寄りのゆうちょ銀行又は郵便局の貯金窓口で配当金をお受取りください。

会社の概要

会社の概要 (2024年3月31日現在)

社名 ヒーハイト株式会社

本社 〒350-1151 埼玉県川越市今福580番地1

埼玉工場 〒350-1151 埼玉県川越市今福580番地1
[敷地面積16,677㎡ 建物面積7,997㎡]
TEL 049-273-7000 (代表)
FAX 049-273-7001

秋田工場 〒010-1653 秋田県秋田市豊岩小山山下田454番地
(豊岩工業団地内)
[敷地面積36,292㎡ 建物面積4,525㎡]
TEL 018-828-0111
FAX 018-828-1192

海外 赫菲 (上海) 軸承商貿有限公司 (中華人民共和国)

設立 1962年 (昭和37年) 7月19日

資本金 732,552,000円

従業員 94名 (46名)
(外、平均臨時雇用者数)

役員 (2024年6月26日現在)

代表取締役社長	尾崎 浩太
専務取締役	尾崎 文彦
常務取締役	福留 弘人
取締役	佐々木 宏行
取締役 (社外)	天野 雅人
常勤監査役	荒井 寿晃
監査役 (社外)	上條 弘
監査役 (社外)	菅野 浩正

株主メモ

事業年度 4月1日~翌年3月31日

定時株主総会 毎年6月

期末配当金受領株主確定日 3月31日 (中間配当を行う場合、毎年9月30日)

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号

電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

上場金融証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場

証券コード 6433

単元株式数 100株

公告の方法 電子公告の方法により行う。

公告掲載URL <https://www.hephaist.co.jp>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【株式会社のお手続きに関するお問い合わせ】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部テレホンセンター
(東京) フリーダイヤル 0120-232-711
受付時間: 土・日・祝祭日を除く 平日9:00~17:00

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

※ 本誌には、ヒーハイトの将来に関連する記述があります。この前提及び将来予測の記述には、経営を取り巻く環境の変化などによる一定のリスクと不確実性が含まれていることにご留意ください。

以上